

平成二十九年 青年教学3級・初級試験 練習問題

立正安国論

()の中に入る語句を答えなさい。記述問題には文章で答えなさい。

「1」背景と大意

(1) 立正安国論は、(①) 年 月 日)、日蓮大聖人が三十九歳の時、当時の実質的な最高権力者(②) ()に提出された「国主(③) ()の書」である。
(2) 日蓮大聖人は安国論を執筆された動機について「去ぬる(④) ()元年八月二十三日戊亥の尅(⑤) ()を見て之(これ)を勘(かん)う(立正安国論奥書)と仰せです。
(3) 「立正安国」とは、「(⑥) ()を立て、(⑦) ()を安んず」と読む。(⑧) ()は安国の根本条件であり、(⑨) ()は立正の根本目的である。

(4) 「立正安国論」は、客と主人との(⑩) 問 答()の問答形式で展開され、相次ぐ災難を嘆く客の言葉に対し、主人は人々が正法に背き悪法を信じていることに災いの原因があると述べる。そして、災厄(さいやく)の元凶として、当時、隆盛を誇っていた念仏を強く破折し(⑪) ()と断じ禁止を促している。このまま謗法に執着していくなら、(⑫) ()難と(⑬) ()難の二難が起ると警告し、実乗の一善(妙法)に帰依するよう促している。最後に客が謗法を捨てて妙法に帰依することを誓った言葉が、本書全体の結論となっている。

「2」本文について

(5) 「但(ただ)し法然聖人の(①) () 現在なり諸仏・諸経・諸菩薩・諸天等を以て(②) ()と載す、其(そ)の文(けん)顯(げん)然(ぜん)なり、茲(こゝ)れに因(よ)つて(③) () 国を去り(④) () 所を捨てて天下飢渴(きかつ)し世上疫病(えきびょう)すと」

(6) 「主人悦(よろ)んで日(ひ)く、鳩化(は)して鷹(たか)と為(な)り雀(すずめ)変(へ)じて蛤(はまぐり)と為(な)る、悦(よろ)しきかな汝(なんじ) (⑤) ()に交(ま)りて(⑥) ()と成(な)る」

(7) 次の御文で、客が正法を信ずると決意したことに対して、主人は「決意即行動」の実践を促します。「1」に入るその主人の言葉の趣旨(しゆし)を、解答欄に簡潔に述べなさい。

「汝(なんじ)当(たう)座(ざ)に信(しん)ずと雖(いえど)も後(のち)定(さだ)めて永(とこ)く忘(わす)れん、若(も)し先(ま)ず国(こく)土(ど)を安(やす)んじて現(げん)当(たう)を祈(いの)らんと欲(ほ)せば」

《解答欄》

】

(13)

大聖人の予言の的中をまとめた次の表を完成させよ。

難の名称	年月日	何年後か	予言的中の内容
自界叛逆難	(15) 年 月	12年後	(16))
他国侵逼難	1回目 文永11年10月	14年後	(17)) 襲来 (18)) の役
	2回目 弘安4年6月	21年後	(19)) の役

(14)

次の御文の【 】に入る部分で、自分個人や一家の安泰・幸福を祈るなら、まず、どうすべきであると仰せか。その趣旨を解答欄に簡潔に答えよ。

「国を失い家を滅せば何れの所にか世を遁れん
汝須く一身の安堵を思わば【 】」

《解答欄》

(15)

「汝早く信仰の(20))を改めて速に(21))に帰せよ、然れば則ち三界は皆(22))なり(同前22))其れ衰んや十方は悉く宝土なり宝土何ぞ壞れんや、国に衰微 無く土に破壊 無んば身は是れ(23))・心は是れ(24))ならん」

(16)

右の御文について、次の文章の空欄に、適する言葉を語群から選んで記入しなさい。

「信仰の寸心」と仰せになっているのは、天変地異は国土全体に及んでいるが、それを転換する根本の方途は、私たち人間の「心」、信仰の「(25))」を改めることにあるとの意味である。すべての現実変革は、一人の(26))に始まるのである。また「実乗の一善」の「実乗」とは法華経であり、「一善」とは「唯一根本の善」との意味である。すなわち、人間に真の幸福をもたらす、法華経の文底の(27))こそが根本の善の教えであり、「実乗の一善」である。

《語群》

A 生命

B 宿命転換

C 法華経

D 一念

E 南無妙法蓮華経

F 変毒為薬

G 人間革命

(17)

次の御文はそれぞれ、「破邪」と「顕正」のどちらに当たるか、【 】に適するものを記入しなさい。また二つを合わせると、「立正」または「安国」のどちらかを表している。正しい方を選び丸で囲みなさい。

- ・ 信仰の寸心を改めて……………【 】
- ・ 実乗の一善に帰せよ……………【 】
- 二つの御文を合わせると……………「立正」・「安国」

(18)

次の文章の空欄に、語群から適する言葉を選んで、書き入れなさい。

仏法の精神が、その基調として脈々と貫かれている社会は、個人が自立の(28) ()
を得て、(29) ()の実現という思想が重んじられる社会である。その社会は、生命
を何より尊重していく最高の文化社会であるゆえに、絶対に衰えることはないのであり、
悲惨な災難や争乱の連鎖を解決する理想的な社会といえよう。

この御文で「(30) ()とあるのは、心を静めて深く思索することであるが、そ
れは、単に何もない平穏な状態の中で安住するという意味ではない。いかなる苦難にも動
じない強靱な精神が真の(同前30) ()であり、また、人々の幸福、平和の社会を建
設するために、どんな困難にもひるまずに戦っていける確固たる心こそ(同前30) ()
である。平和とは、自己の生命をよりよき方向へと常に向上させていくことであり、その
精神を一人からまた一人へと広げていく連続闘争である。ゆえに、(31) ()こそ平
和の武器である。

《語群》

- | | | | |
|----------|-------|-------|------|
| A 戒律 | B 唱題行 | C 智慧 | D 対話 |
| E 自他共の幸福 | | F 生命力 | G 仏国 |
| H 転重軽受 | I 禅定 | | |

(制作中のため、未だ続きます。)

立正安国論 解答

〔1〕背景と大意

- | | | | |
|-------------|--------|---------------------------|--------------------------|
| ① 文応元年七月十六日 | ② 北条時頼 | ③ 諫曉 <small>かんぎょう</small> | ④ 正嘉 <small>しょうか</small> |
| ⑤ 大地震 | ⑥ 正 | ⑦ 国 | ⑧ 立正 |
| ⑨ 安国 | ⑩ 十問九答 | ⑪ 一凶 | ⑫ 自界叛逆 |
| ⑬ 他国侵逼 | | | |

〔2〕本文について

- | | | | | |
|-----|---------------------------|--|------|------|
| (5) | ① 選択 <small>せんちやく</small> | ② 捨閉閣抛 <small>しゃへいかくほう</small> | ③ 聖人 | ④ 善神 |
| (6) | ⑤ 蘭室の友 | ⑥ 麻畝 <small>まほ</small> の性 <small>しょう</small> | | |

(7) 「速すみやかに考えを巡めぐらし、急いで謗法に対治を加えなさい。」

- | | | | | | |
|---------------------------|------|------|-----|--------|--------|
| (8) | ⑦ 七 | ⑧ 五 | ⑨ 二 | ⑩ 他国侵逼 | ⑪ 自界叛逆 |
| ⑫ 兵革 <small>ひょうかく</small> | | | | | |
| (9) | ⑬ 鬼神 | ⑭ 万民 | | | |

(10)

〔他国侵逼難〕

(11)

〔自界叛逆難〕

〔他国侵逼難〕

(12)

A. ×

B. ×

C. ○

D. ○

(13)

⑮ 文永九年二月

⑯ 二月騒動

⑰ 蒙古

⑱ 文永

⑲ 弘安

(14)

「自身の安穩・幸福を願うなら、世界の平和・国の安定を祈るべきである。」

(15)

⑳ 寸心

㉑ 実乗の一善

㉒ 仏国

㉓ 安全

㉔ 禅定

(16)

㉕ 一念

㉖ 人間革命

㉗ 南無妙法蓮華經

(17)

・ 信仰の寸心を改めて・・・・ 破邪
 ・ 実乗の一善に帰せよ・・・・ 顕正
 二つの御文を合わせると・・・・ 立正

(18)

㉘ 生命力

㉙ 自他共の幸福

㉚ 禅定

㉛ 対話

(19)

(20)

(21)